



筑紫女学園大学リポジト

街角の米国英語 : その表現のあや (その1)

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2014-02-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 小木野, 一, OGINO, Hajime メールアドレス: 所属:
URL	https://chikushi-u.repo.nii.ac.jp/records/133

街角の米国英語

その表現のあや (その1)

小木野

—

Expressiveness of American English in Towns (Part One)

Hajime OGINO

まえがき

2008年の夏、旅行で訪れた米国の都市で見つけた英語（米国英語）を取り上げて、英語学的観点より分析、説明を行う。

1. 音声的効果を使ったあや

1.1 音声記号によるもの

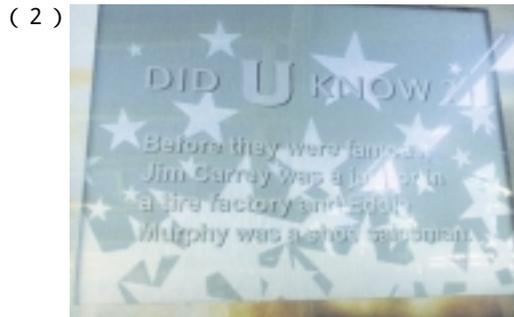
(1)



これは Copley Square Hotel のキャッチコピーで、全体が手紙形式になっている。音声記号（らしい）[Re:] は手紙の最初に書かれる Reference to「・・・に関する」を意味するものと思われる。Creating A Legend は、「伝説になるような（有名なホテル）造りをする」という意味であろう。上に見られる perfectly, yours は手紙の結び文句でよく使われる sincerely yours に代るもので、ホテルは「完璧な状態である」ということを表しているものであると考えられる。

1.2 音合わせによるもの

音合わせは、発音が同じか、あるいはきわめて良く似た語を重ね合わせた一種の言葉遊びが見られるものである。



U [ju:] と you [ju:] を掛け合わせている。Did U know? 「知っていましたか」



2 (two) [tu:] と to [tu:] を重ねている。Get it 2go 「(急いでいるのであれば、朝食に)もってこい」



4 (four) [fɔ:r] と for [fɔ:r]、2 (two) [tu:] と to [tu:] がそれぞれオーバーラップしている。(5) はそれらをスペルアウトしたのものがある。

4 (for) back 2 (to) school 「(9月)新学期のはじまりに」

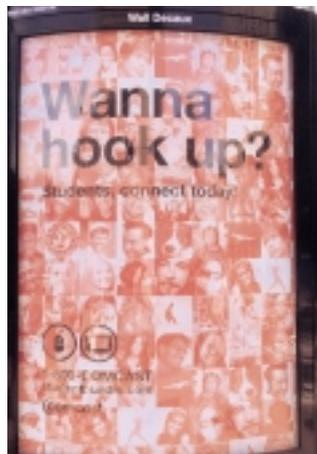
(5)



1.3 音の融合によるもの

音の融合は、相隣り合う音が影響し合って、一種の同化現象を起こして音が変わり、お互いの音が一つの音として溶け合っているものである。

(6)



want to [wʌnt tə] が [wʌn nə] となり、さらに [wʌnnə] と融合して、wanna と一語のように綴られている。wanna hook up は「インターネットの接続を行いたいですか」と意味であろう。

(7)



lot of [lɒt əv] が [lɒtəv] となり、さらに [lɒtə] と融合して、lotta と一語として綴られている。

a whole lotta lunch は「たっぷりいっぱいランチ」という意味である。

1.4 最小対立ペアーによるもの

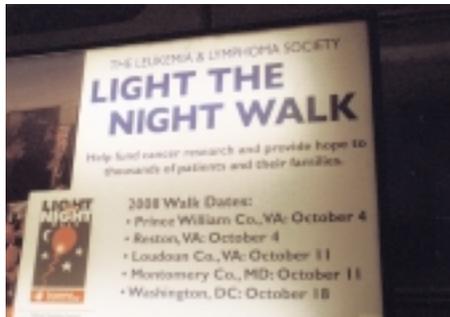
最小対立ペアーとは2つ以上の語の発音が、一音のみが異なり、他の部分の発音が同じ場合をいう。たとえば諺 Health is better than wealth「健康は富に勝る」において health[helə]と wealth[welə]では、最初の音[h]と[w]のみが異なり、他の部分[-elə]は同じである。したがって語頭の[h]と[w]のみで単語の違いが生じていて、health と wealth は最小対立ペアーということになる。

(8)



taste [teist] と waste [weist] で [t] と [w] がコントラストしている。Taste, not waste「味わってもよいが、むだにはいけない」

(9)



light [laɪt] と night [naɪt] で [l] と [n] が対立し、他の部分の発音は同じである。意味的にも night「夜の暗さ」と light「明るさ」が対比されている。Light the night walk「(白血病やリンパ腫の慈善事業のため)夜のウォークラリーに灯火をもって歩いて明るくする」

(10)



chill [tʃɪl] と bill [bɪl] で [tʃ] と [b] のみが異なる。More chill, less bill 「もっと冷たいものを飲んでも、勘定は少ない」

(11)



ditch [dɪtʃ] と dish [dɪʃ] で [tʃ] と [ʃ] が対立している。Ditch the dish 「(皿状の)衛星放送受信アンテナを捨てて(換えてケーブルに)」というコピーである。

(12)



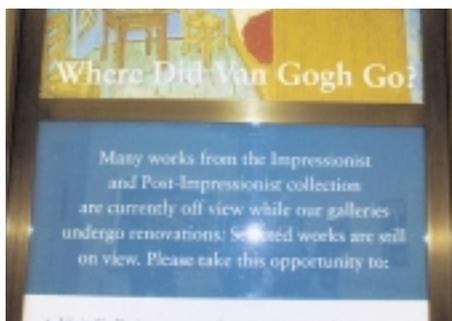
live [lɪv] と love [lʌv] の最小対立ペアーを使っている。あるとき Love your life you live, Live your

life you love という英語が書かれている Tシャツを着ているのを見かけたことがある。

1.5 頭韻によるもの

一文の中で複数の語の最初の音の発音が同じである場合を頭韻といい、文にリズムを生み出す効果がある。たとえば諺で Better bend than break「負けるが勝ち」では better[beɪə], bend[bend], break [breik] の 3 語の最初の音が [b] である。

(13)



これは、明らかに Gogh [ɡɔx] と go [gou] の頭韻 [g] を利用したものである。Where Did Van Gogh Go? [バン・ゴッホはどこに行ったのか (美術館が改修中のため印象派のバン・ゴッホの絵画が展示されていないことを説明している)]

(14)



worst [wɜ: rst] と week [wi: k] で頭韻 [w] が使われている。Worst Week「最悪の週」

(15)



compliment [kəmplɪment] と complaint [kəmpleɪnt] で頭韻 [k] が使われている。Compliments or

Complaints, Let us know 「お気に入ったことあるいはご不満があったらお知らせください」

(16)



reputation [repjuteiʃən]と relationship [rɪleɪʃənʃɪp]で、頭韻は [r]である。We earn our reputation one relationship at a time 「私たちの良い評判を口こみで (by word of mouth) で獲得する」

(17)



fool [fu:l] と friend [frend] で、[f] が頭韻である。Fool a friend 「友達に一杯食わせる」

(18)



save [seiv] と style [stail] の二語の頭韻は [s] である。Save in Style [このようなスタイルのファッションを買って節約する ~ 節約できてカッコよくなれる] という二つの意味が込められているのであろう。

(19)



breakfast [brekfəst] と Ben [ben] の頭韻は [b] である。Breakfast with Ben [わたくしどもベンのところで朝食を]

(20)



laugh [læf] learn [lə: n] land [lænd] の三語の頭韻は [l] である。Laugh and learn by land and sea 「水陸両用車で楽しんで学んで下さい」



smile [smail] と summer [sʌmər] で頭韻 [s] が使われている。Smile, It's summer 「笑って、夏です」



cookies [kuki: z] と cream [kri: m] の頭韻は [k] である。Cookies n' Cream Chill 「クッキーとクリムのつめたいの」



clean [kli: n] と coal [koul] で頭韻は [k] である。Clean coal 「クリーンな石炭」はコークスのような無煙炭に似たものである。

(24)



safe [seif] と sorry [sɔri] で [s] が頭韻である。Better safe than sorry 「つまらないと思うよりは安全がよい」

(25)



scope [skoup] と score [skɔ:r] の頭韻は [sk] である。Scope out the big names 「知名度のある人にねらいをつける」、Score some kickbacks 「リベートを手に入れる」

1.6 脚韻によるもの

脚韻は、文中の複数の語の末尾の発音が同じ場合をいい、文に音声的なリズムが出る。よく知られている諺 A friend in need is a friend indeed 「まさかの友は真の友」では need [ni:d] indeed [indi:d] と脚韻 [- i: d] が使われている。



light [laɪt] と flight [flaɪt] で脚韻は [- laɪt] である。Light makes flight 「(Nike [naɪk] の) 軽い(シューズ)だと(高く)飛び上がることができる」



experience [ɪkspɪəriəns] と difference [dɪfəreɪns] の脚韻は [- əns] である。Experience the difference 「違いを経験してください」



redefined [rɪdaɪfaɪnd] と refined [rɪfaɪnd] の脚韻は [- faɪnd] である。Redefined and Refined 「すっかりしてかつ品が良い」

(29)



spots [spats] と hotspots [hatspats] の二語の脚韻は [- spats] である。you can work in more spots than just hotspots 「ワイヤレスインターネットを使う (hotspots) よりもっとはやくアクセスできる」

(30)



dirty [dɜrti] sexy [seksɪ] money [mʌni] の三語の脚韻は [- i] である。ある意味では三語とも「きたない」ものである。

(おぎの はじめ : 英語学科 教授)

(続く)